

中学生に読んで欲しい！おすすめの一冊

小野市立図書館の職員が、中学生の皆さんにぜひ読んで欲しい「おすすめの一冊」を紹介します。
この夏は、新たな本との出会いを楽しんでみませんか。

『少年探偵 1』

一怪人二十面相—
作者：江戸川 乱歩
出版社：ポプラ社



名探偵“明智小五郎”にその助手“小林少年”と変装名人“怪盗二十面相”が対決する、ハラハラドキドキちょっぴり怪奇な推理小説です。リアルなトリックが面白いのはもちろん、独特な言い回しで、自分がその世界の中にあるような錯覚に陥るのが何とも言えません。

『夢をかなえるゾウ』

作者：水野 敬也
出版社：飛鳥新社



サラリーマンの主人公の夢を叶えるため、ガネーシャというインドの象の神様が表れます。イメージと少し(?)違った人間味あふれる神様と主人公とのやり取りが面白く、引き込まれていきます。思わず、「うんうん」とうなずいてしまう場面もたくさんあり、人間の奥深さが伝わります。

『ゆうべの食卓』

作者：角田 光代
出版社：オレンジページ



さまざまな人生のひとコマを「食卓」というキーワードで紡いだ短編集。ひとりでも誰かとも「食べる」ことが私たちにあってどれだけ大切かということ。そして、日常の中の料理や食事の時間がかけがえのない思い出となり、生きる希望にもなっていくことに改めて気づかされる。

『ローズの小さな図書館』

作者：キンバリー・ウィリス・ホルト
出版社：徳間書店



ローズからはじまり、4世代にわたって本への愛が描かれたお話です。海外小説の児童書ってハズレがないと思います。なんてたって世界中から選ばれた本が読みやすく翻訳されているのですから。

『杉森くんを殺すには』

作者：長谷川 まりる
出版社：くもん出版



タイトルの印象とは異なり、推理小説(ミステリ)ではない。が、ページをめくると予想を裏切られる点では、ミステリアスだ。誰かを「殺す」日が来たとき、自分ならどう向き合うか考えずにはられない。

『はじめての』

作者：島本 理生、
辻村 深月
宮部 みゆき
森絵 都
出版社：水鈴社



「はじめて〇〇した時に読む物語」をテーマに書かれたアンソロジー。それぞれの作品は、音楽ユニット YOASOBI の音楽とコラボして作られた物語です。今までにない“はじめての”読書体験をお楽しみください。

『アップサイクル！』

ぼくらの明日のために—
作者：佐藤 まどか
出版社：ポプラ社



3人の中学生が、アップサイクルで起業を目指します。まとまらない3人の意見が、少しずつ同じ方向を向き、形になっていく様子や、「人間関係のアップサイクル」という発想が新鮮で、新しいことに挑戦したくなるお話です。

『太郎物語—高校篇—』

作者：曾野 綾子
出版社：新潮社



昔、学生の頃に、読んでとてもおもしろかったので、ぜひ、読んでいただけたらと思います。大学編も続けて読みました。高校生の太郎がのびやかに青春時代を過ごす姿を描いています。

『子どもと一緒に見つける 空を見上げるさんぽ図鑑』

監修：自然観察大学
出版社：永岡書店



勉強や部活等で忙しい毎日ですが、すき間時間に空を見上げてみませんか。その時に新たな発見や疑問が生まれ、目に入るものを知ることで、世界がもっと広がります。

『今日のハチミツ、あしたの私』

作者：寺地 はるな
出版社：角川春樹事務所



蜂蜜をもうひと匙(さじ)足せば、たぶんあなたの明日は今日よりも良くなる。何をすべきか迷い、悩んだり立ち止まったりしているときに、そっとあなたの背中を押してくれる、おとぎ話のような一冊です。

『アルジャーノンに花束を』

作者：ダニエル・キイス
出版社：早川書房



知性を得て、賢くなってもそれで幸せになれるとは限らないと気づかされます。本当の幸せって何なのかを考えさせられるお話です。

『やりたいことが 見つからない君へ』

作者：坪田 信貴
出版社：小学館



他人ウケより何歳からでも人はスタートできることを教えてくれる優しい本です。夢も目標も見つけれない人に届きますように。

『カラフル』

作者：森 絵都
出版社：講談社



小説や活字が苦手な人でも手に取りやすい一冊。主人公が、生前の罪で輪廻サイクルから外され、天使の抽選に当たり自殺を図った少年の体へホームステイするお話。思春期真只中の人にピッタリなファンタジー青春ストーリーです。日常と非日常が掛け合わさる世界観を楽しめるとおもいます。

『ぼくのメジャースプーン』

作者：辻村 深月
出版社：講談社



大切な人が、悪意ある他者によって傷つけられたとしたら、そして、もし自分に犯人を罰する能力があったとしたら？小4の「ぼく」の幼なじみのふみちゃんは、事件のショックで言葉を失った。ある能力を持つ「ぼく」は、犯人に与える罰を量り続ける。ぼくがふみちゃんにできることは何だろう？そして「ぼく」が最後に出した答えとは。

『ライオンのおやつ』

作者：小川 糸
出版社：ポプラ社



若くして余命宣告された主人公が、瀬戸内の島のホスピスで残りの日々を送ることを決め、どう生きるかを考える。毎週日曜日にリクエストできる「おやつの時間」があるがなかなか選べない。食べて、生きて、旅立っていく・・・。「すべての人に訪れること」を、ほんわり温かく、今を大切にと思わせるストーリーです。

友達に読んで欲しい！おすすめの一冊

6月のトライやるウィークで、図書館に来てくれた皆さんにもおすすめの一冊を教えてくださいました。

『ハーブ魔法のふしぎなレシピ』

作者：あんびる やすこ
出版社：ポプラ社



ハーブ魔法のトパーズの家を相続することになった人間の女の子シャレットが、トパーズの「家」に認められるために頑張るところがおもしろい。植物に興味がある人や魔法や魔法が好きな人におすすめ！

『オズの魔法使い』

作者：ライマン・フランク・ボウム
出版社：小学館



カンザス州にヘンリー叔父さん、エム叔母さんと住んでいたドロシーが犬のトトと竜巻に家ごと巻き込まれて、オズの池にたどりつきます。かかし、きこり、ライオンといっしょにオズに会い、願いを叶えてもらう話です。

『かがみの孤城』

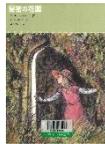
作者：辻村 深月
出版社：ポプラ社



初めは名前も知らない、会った事もない他人。けれど、それぞれの共通点や事情を考えさせられる本です。最初は、つながっていないと思った話がつながって、読み進めると止まらなくなります。おすすめです。

『秘密の花園』

作者：バーネット
出版社：福音館書店



インドからイギリスにひきとられた少女メアリが新しい環境や人と接することで、成長していく物語です。特に景色や植物などについて書かれており、春の独特な雰囲気や季節の美しさに読み入ってしまいます。

『青春サプリ。』シリーズ

作者：青木美帆、田中夕子、日比野恭三 他
出版社：ポプラ社



5つの部活ストーリーが書かれているところがおすすめポイントです。実際にあったお話なので、その時の心情が分かりやすく描かれています。「夢に向かって突き進む」という高校生の「悔しさ、喜び」が書かれています。(当館所蔵は一部のみ)

『怪談5分間の恐怖 立入禁止』

作者：中村 まさみ
出版社：金の星社



約5分で読める短い物語がたくさんあり、読みやすく面白いです。特にホラー好きの人におすすめです。シリーズなので、他にもたくさんのお話があります。

『世界一やさしい 依存症入門』

作者：松本 俊彦
出版社：河出書房新社



薬物依存をしている人が悪いという内容ではなく、なぜそうってしまったのかや、その後の対応について、いろいろ書かれています。

『蜂と蟻に刺されてみた』

作者：ジャスティン・O・シュミット
出版社：白揚社



社会性を持つ生き物たちの知られざる一面を明かします。100種類以上の昆虫に刺された博士の体験談を詰め込んだエッセイです。

『小林先生に学ぶ 動物行動学』

作者：小林 朋道
出版社：少年写真新聞社



動物には、様々な行動があって面白い。それぞれの動物がする行動の理由が分かる。

☆おしらせ☆

8月は、図書館2階の自習室を毎日開放しています。

他の人がいる空間やいつもと違う環境で勉強することで、モチベーションが上がったり、受験本番の雰囲気を感じたりすることができるので、勉強方法の一つとしてご活用ください。

小野市立図書館

小野市中島町64番地
TEL:0794-62-046

【8月の開館時間】 9時～18時 (7月中は、10時～18時)

【7・8月の休館日】 7/23 (火)、8/17 (土)、8/18日 (日)

所蔵検索もできる！
小野市立図書館 HPは
こちらから→

